

再評価結果（平成24年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課

担当課長名：三浦 真紀

事業名 一般国道3号 <small>はかた</small> 博多バイパス	事業区分 一般国道	事業主体 国土交通省 九州地方整備局
起終点 起点：福岡県福岡市東区下原 <small>ふくおか ひがし しもばる</small> 終点：福岡県福岡市東区二又瀬 <small>ふくおか ひがし ふたまたせ</small>	延長 7.7km	
事業概要 博多バイパスは、福岡市東区下原から福岡市東区二又瀬に至る延長7.7kmのバイパスであり、国道3号における交通混雑の緩和や交通安全の確保等に寄与する事業である。		
S43年度事業化	S21年度都市計画決定 (S43年度変更)	S44年度用地着手
S46年度工事着手		
全体事業費	約462億円	事業進捗率
		85%
計画交通量	47,300～78,100台/日	
費用対効果分析結果	B/C (事業全体)	5.8
	(残事業)	10.5
総費用 (残事業//事業全体)		67/975億円
事業費		52/911億円
維持管理費		15/63億円
総便益 (残事業//事業全体)		705/5,693億円
走行時間短縮便益		666/4,737億円
走行経費減少便益		31/737億円
交通事故減少便益		8.5/218億円
基準年 ：平成23年		
感度分析の結果		
【事業全体】	交通量変動：B/C=5.7～6.0(交通量 ±10%)	事業費変動：B/C=5.8～5.9(事業費 ±10%)
	事業期間変動：B/C=5.8～5.9(事業期間±20%)	
【残事業】	交通量変動：B/C=9.4～11.6(交通量 ±10%)	事業費変動：B/C=9.7～11.4(事業費 ±10%)
	事業期間変動：B/C=9.6～11.0(事業期間±20%)	
事業の効果等		
①交通混雑の緩和		
・ 並行する国道3号現道の交通混雑が緩和し、旅行速度が向上		
②交通安全の確保		
・ 通学路に進入する通過交通が排除され、地域生活環境が向上		
③物流の支援		
・ 走行環境や速達性の向上が図られ、更なる物流支援に資する		
④公共交通の支援		
・ バス到着遅れ時間の改善により定時性が向上		
⑤救急医療活動の支援		
・ 救急医療活動のアクセス時間の短縮		
⑥高速ネットワークの代替機能の確保		
・ 都市高速道路通行止め時の代替路として走行環境が改善		
関係する地方公共団体等の意見		
福岡市をはじめとする福岡都市圏17市町で構成される福岡都市圏広域行政推進協議会（会長：福岡市長）により、積極的な整備促進が要望されている。（平成23年8月）		
市長の意見		
「対応方針（原案）案」に異存はありません。引き続き整備促進をお願いしますが、以下の項目についてご配慮をお願いいたします。		
1. 早期完成に向けたさらなる取り組み		
2. 事業実施におけるさらなるコスト縮減		
事業評価監視委員会の意見		
審議の結果、事業継続		
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等		
博多バイパスが通過する福岡市東区の人口、自動車保有台数は、前回評価以降も増加傾向にある。また、博多バイパスと並行する国道3号現道の交通量は増加が続いており、慢性的な交通混雑（混雑度：1.86～1.97）が発生している。		

事業の進捗状況、残事業の内容等

平成22年度末の事業進捗率は事業費ベースで約85%であり、そのうち用地進捗率は約95%に達している。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

地元や関係機関との協力体制のもと、事業効果を早期発現できるよう、引き続き関係機関と調整を図りながら全線供用へ向け、整備を推進していく。

施設の構造や工法の変更等

- ・環境基準を超過する騒音が予測されたことに伴う遮音壁の追加【約4億円増】
- ・視認性が高く、防犯上も優位な橋梁形式への変更【約7億円増】
- ・交通安全及び円滑な交通の確保を図るため、横断歩道橋を設置【約2億円増】
- ・道路本体の施工前に水道管施工が可能となり、水道管移設工法の見直しによるコスト縮減【約0.3億円】

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上事業の効果、事業評価監視委員会における審議、市長等の意見を踏まえると、事業の必要性、重要性は高いと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。